

審議会名	令和4年度 第4回前橋市スポーツ推進審議会
日 時	令和5年3月27日（月）午後2時00分～午後3時00分
場 所	総合教育プラザ6階 63研修室
出席者	（委員：8人） 遠藤会長、蜂須副会長、狩野委員、滋野委員、静委員、中雄委員、松本委員、曾根委員 （事務局：6人） 新井文化スポーツ観光部長、佐藤スポーツ課長、田村補佐、萩原補佐、関口主事、亀井職員
欠席者	塩原委員、永井委員、阿久澤委員、小山委員
内 容	【審議会】 1 開会 2 あいさつ 3 議題 （1）報告事項 令和4年度事業報告について （2）審議事項 前橋市スポーツ推進計画の策定について （2）その他 4 閉会
決定事項	スポーツ推進計画（第3章～第4章）について
配布資料	1 令和4年度事業報告 2 前橋市スポーツ推進計画（第3章～第4章）
問合せ先	スポーツ課スポーツ施設係 027-898-5832

令和4年度 第4回前橋市スポーツ推進審議会
会議録

【審議会】

1 開会

2 あいさつ
遠藤会長

3 議題

(1) 報告事項 令和4年度事業報告について

(事務局)

資料に基づき説明。

(蜂須副会長)

別件だが確認したい、旧春日中や旧広瀬中の活用にあたりどのような工事を考えているのか。

(事務局)

方向性など決定しているものはない、どのように利用していくかにより必要な整備を行うもの
と考える。

(蜂須副会長)

今後、統廃合される施設はあるのか。

(事務局)

聞いているものはない。

(蜂須副会長)

拠点づくりは必要だと思う、統廃合はこれからでてくる可能性もあるので学校跡地の有効利用
を図って頂きたい。

(2) 審議事項 前橋市スポーツ推進計画案について

(事務局)

資料に基づき説明。

(遠藤会長)

前回、政策目標にある競技水準の向上という表現について意見があった。

(静委員)

競技水準の向上だけでなく、人材育成の推進としても良いのではないかと、選手や指導者を育てる、そういう意味では競技水準の向上という言葉で括れるならよいのだが。

(事務局)

競技水準の向上と人材育成と言う表現になるか。

(静委員)

いいのではないかと、方向性で指導者とかスポーツボランティアとか出てきているのでそういった中で一括して競技力向上とすればいいのかもしれない。

(事務局)

取組みの方向性として指導者の育成、ボランティアの育成、競技力向上としているので、競技水準の向上と人材育成という表現でも整合すると思う。

(静委員長)

人材を大事にしていることを政策目標に入れるのもひとつと考える。

(中雄委員)

競技スポーツに関わる育成とするのはどうか、する・みる・ささえるスポーツに関わってこなかった一般的な市民に対して出していく内容とすると、競技力との部分で温度差を感じるように思うので、人材育成を全面に出すほうが良いのではないかと。

(中雄委員)

スポーツに関わる人材育成を推進するのか、その中に競技力向上とか競技スポーツに関わる人材の育成はささえるに入ってくる、競技スポーツに関わる人材確保という表現が入ってくる。

もっと具体的なものが入っても問題ない、温度差を考えるとあえて残すのか、あえて並列させる必要もない気がする。

(中雄委員)

競技という言葉が外せないと思うので、競技スポーツに関わる人材の育成という表現に収めてしまう。競技水準の向上という表現から言うと子供たちがスポーツをする楽しさ、魅力に触れる機会の充実が競技水準の向上に繋がるかという矛盾が出てくるので、矛盾点を解消したうえで市民向けに、よりスポーツに関わる人を増やしていく見えやすい見え方として「競技スポーツの人材育成（又は推進）」あたりがよいのではないかと、また「競技水準の向上と人材育成」とするのも案かと思う。

(事務局)

競技水準の向上と人材育成、スポーツに関わる人材育成。

(中雄委員)

ひとまとめの方がすっきりするのではないかと。

(遠藤会長)

前回の話で、競技水準の向上を市レベルの取り組みとするのはどうかとの意見があったが。

(静委員)

競技力向上は市の段階ではなく県とか国レベルの段階の話になるのでないかと言うことだった。

(遠藤会長)

人材の育成とは強い選手を見つけようということになるのか。

(中雄委員)

それもあるけど、スポーツボランティアの育成をしたから競技力が向上するのかわかれると、逆にスポーツボランティアがいないと競技スポーツが成り立たないので逆説的。それが無いといろんな形で行われている大会など運営できないので、スポーツボランティアが必要だという表現もわかる。いないと大会さえも開けない、指導者も不足してくる。全て逆説的にかかってくるこれがあるから、これが無いと競技自体、活動の場が成り立たないという状況がいまあるので、この後ろの4項目が、競技水準の向上につながるが、競技水準の向上をただただ求めるのであれば、よい選手を、よい監督が、よい環境で育てればいいだけのことになるので、ここに出てくる政策目標として示している2つを比べると競技が大きく浮いてしまう。一部の人だけが競技するような内容になってしまう。

ボランティア育成だとか、ボランティアに促すという意味ではまた逆の話で、市民全体に対して競技スポーツを含めて関わってくる形になってくるので、そういった意味では競技スポーツに関わる人材の発掘であり育成であるといった表現の方が、より市民に当てはまるかたちになる。発掘という言葉があうかもしれない、競技スポーツに関わる人材の発掘とか。

(中雄委員)

地域連携支援がささえるだけだと、4項目が競技力向上に直接かかりきっていない気がするので余計に違和感がある、競技系のスポーツを推進と政策目標はあるが中身をみると弱い、子どもたちに興味をもってもらう、ボランティアの育成、指導力アップとあるが、競技選手の環境の改善であるとか、あとの項目がより競技力向上につながるような取組みの方向性がある、前に出てくるほうが良いのではないか。

(事務局)

競技水準の向上とすると、関心や関わってくれる人が増えると大きな効果がある、違和感があると言うのはおっしゃる通りだと思う。人材育成としてまとめるほうが良いと思う、そういった人材育成が競技水準の向上に繋がると思う、指導者、スポーツ選手そういった人材を育成しているということが競技水準の向上につながる、そういった方向でのまとめ、人材育成によった形とすることではどうか。

(遠藤会長)

意見ありますか、競技水準の向上の表現については事務局に一任することでどうか。

(事務局)

スポーツに関わる人材という表現になるのではないかと考える、スポーツに関わる人材育成を仮として事務局で検討させて頂きたいと考える。

(遠藤会長)

では、事務局に一任することよろしいか。

(一同)

承知した。

(遠藤会長)

前回、取組みの方向性にある施設改修について、また施策の展開にスケートボードを加えてはとの意見が出ていた。

(事務局)

取組の方向性については、スポーツ施設の計画的な改修と改めた、また施策の展開④でスポーツに触れるための情報発信について、アーバンスポーツなど新たなスポーツの情報発信とさせて頂いた。

(事務局)

バスケットボールの3オン3やスケートボードなどについての意見がありましたので、新たなスポーツと表現させて頂いた。

(静委員)

4ページ施策の展開で、1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進と項目があり、②でまたすべての市民のライフステージに合せたスポーツ支援、とライフステージを重ねて使っているのが気になった。たとえば、②はスポーツ大会とか健康フェスとかイベントの支援などと表記した方がいいのではないか。

(中雄委員)

②のライフステージを取って、全ての市民に合わせたスポーツ支援という形でもいいのではないか。競技にいろいろ話のあったそれである競技スポーツの支援もライフステージの一つなので、ここにそれを入れてもらえると良い。

政策目標の1に「する」の内容が全て書かれている、目標の2は「する」もあるが「みる・ささえる」が中心になっている、施策の展開1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進の中に競技スポーツも含まれている、二重にかかる部分外しても大会等の例えば部活動とか浮いてしまう。元の話にすると③の部分、④の部分も問題はないと思うので、まずは情報発信として見直しの際に次のステージに上げていく感じです。

(遠藤会長)

4ページのライフステージに応じたスポーツ活動の推進に係る意見になるのか。

(中雄委員)

どちらかというと具体的に3ページにいろいろな目標、取り組む方向性があり、4ページに具体的な内容が書かれている、最初に上がったのが4ページ中段下④中のアーバンスポーツということが入ったということです。

(事務局)

意見とすると、②のライフステージを削除してはどうか言うことですか。

(中雄委員)

いろいろな形はあると思うがライフステージという言葉が2回続くのでどうかと言うことです。

(静委員)

そのとおりだと思う。

(中雄委員)

なにかの形で再構築する余地があれば付け加えて、手前の競技スポーツの話がすごく重要な形で検討しておられるので、ライフステージのところは取っていいのかなと思う。入らなくてもここに上がっているのは参考項目なので他の項目が入ってきても問題はないと思う。

(遠藤会長)

ライフステージと言う言葉がいくつか出てくる、言葉の定義もいろいろと見えてしまう、少し整理するというところでよろしいか。

(静委員)

よいのではないか。

(遠藤会長)

理解も人により色々あるから今の意見を参考に整理してもらいたい。

(事務局)

こちらで整理する。

(遠藤会長)

その他何かありますか。

(遠藤会長)

全体的に2つは、もう一度事務局で検討してもらい、通知してもらうことでよろしいか。

(一同)

よい。

(遠藤会長)

次にキャッチフレーズについて、資料に例が記載されている。する・みる・ささえるは基本的な部分になるので、そのあとに続くワード、言葉について意見を聞きたい。

(蜂須副会長)

順位をつけると スポーツが溢れるまち前橋、新しいスポーツのまち前橋の順となる。

(静委員)

「スポーツとともに楽しむまち前橋」はどうか。

(中雄委員)

共生社会の点で、いろいろな形で市民生活の中にスポーツを取り入れていこうということを考えると2番目の「スポーツでつながる」ようなのがいいと思う。とくに推進していくなかのメインとして誰もがスポーツに関わるというところが強く出るかと思う。

(遠藤会長)

私としては「スポーツでつながる」がいいと考える。

(狩野委員)

このなかでは、「スポーツでつながる」というのが良い。

(曾根委員)

私も、「スポーツでつながる」というのが良い。

(松本委員)

前々回の審議会では「つながる」が出ていたと思う、「つながる」が良い。

(滋野委員)

道端でキャッチボールをする、ボールを蹴るなど、スポーツがあちらこちらで行われるイメージがあるので、「溢れる」が良い。

(遠藤会長)

「する・みる・ささえる」がバラバラであるのではなく、そういう人たちが繋がる、スポーツでつながるというところでもいいのではないかと思う。

(中雄委員)

スポーツでつながるという形が共生社会になる。先ほど静委員さんが言った案を入れるかどちらかと思う。静委員さんがいったものはどちらかという共同という意味があり、「する・みる・ささえる」はそれぞれ独立したものではないので、アーバンスポーツに関わる一つの見方であって、あくまでそれらは関わる見方によって同じスポーツにおいても色々な使い方ができる。

(静委員)

「スポーツでつながる」が良い。

(遠藤会長)

キャッチフレーズについては、「する・みる・ささえる スポーツでつながる まち前橋」に決定とすることでよいか。

(一同)

賛成。

(遠藤会長)

事務局に任せた点については、進めていただく、他に何かあるか。

(事務局)

用意しているものは無い、事務局一任の部分については次回の審議会で示したい。

(遠藤会長)

以上とする。

4 閉会